

石巻市災害ボランティア活動に行ってきました

災害ボランティアが少なくなっているという情報もあり、5月28日～5月31日の3泊4日で妻とボランティア活動に参加してきました。

◆万全な準備

絶対現地に迷惑をかけないというルールを守るためのマニュアルを読み万全の準備をして出かけました。

テントをはじめゴーグルや安全靴、手袋も綿手、ゴム手、皮手と全て揃えました。事前のボランティア保険、スコップや持ち帰りのゴミ袋などは当然準備しましたが、土嚢までは持っていきませんでした。結果的にはかなり、ボランティアセンターで準備してありました。

◆第一日目（5月28日）

震災にあった妻の叔父宅を訪問しました。この地区は写真の通り全て喪失し今も満潮時は水没します。既に石巻を離れ隣町の涌谷町に住んでいます。

震災8日目に孫とおばあさんが奇跡的に助かったニュースで有名な石巻市門脇町在住で彼らの家とは斜め向かいの至近距離でした。叔父さんのお孫さん♥が奇跡的に助かった物語を実況中継形式でお伝えします。

震災当日、同居している日赤石巻病院勤務のお孫さんが緊急大津波警報を聞いて、病院から家に戻り車で叔父夫妻を高台の日和山に避難させました。お孫さんが病院に戻る途中、津波に飲み込まれてしまいます。

水圧の関係で車からの脱出が困難な中、足で蹴飛ばして開けたそうですが、服が引っかかって水面に出られない時に死を覚悟したそうです。

運よくはずれて水面に顔を出し流れている内に鉄の柵にしがみつくとことができました。そこへ車の屋根にご夫妻二人が筏のように乗って流れてくる場面に遭遇します。このご夫妻に手を差しのべられて車の上に乗る3人で漂流します。少し大きな車にぶつかった時にたまたまこの車に引っかかり止まったそうです。そして、水が引くまで待っていて奇跡的に助かります。また、家を出る時に通帳や現金などの貴重品ボックスを車に積みましたが、ドアを開けた時に車から浮き出て流れてしまいます。



しかし、水がひいた後、インスピレーションゲームのように偶然ガレキの中から見つけ出すのです。水がひくのに何日もかかっている中で海岸付近の在住者で助かった人は、ほとんどがこのお孫さんの例のようにきわどい経験をしています。

専修大学石巻校内にある石巻市災害ボランティアセンターで受け付けを修了しましたが午後になってしまい、当日は仕事ができませんでした。

専修大学石巻校内には、ボランティアの人たちのテントがたくさん張っており、マンパワーを感じました。毎日500人を超える人たちが全国から来ていることが車のナンバーから分かりました。

明日、8:30集合を確認し廃墟の町を見て回りました。



専修大石巻キャンパス

私のテント↓

↑たくさん
のテ
ン
ト
が
張
ら
れ
て
い
る

このガレキ状態を処理している主役は自衛隊です。

自衛隊のトラックが見えます



門脇小学校↓



↓石ノ森章太郎記念館

◆第二日目（5月29日）

栃木県那須塩原市のボランティア炊き出し隊の朝食をご馳走になった後8:30に集合しました。当日の仕事が本人の挙手によりどんどん決まっていきます。雨だったこともあり、仕事が少なめでした。私と妻は力仕事でなく、水没した病院のカルテを洗浄・消毒する仕事に手を挙げました。

実は、病院も医者も被災しており、病院が機能していない理由のひとつにカルテが汚染されていて使えないことがあります。



雨の中、完全武装で、本日の仕事が決まる集合場所へ向かうところです

個人情報扱いのためボランティアの仕事として認められないまま放置され、医療再開ができないでいるのです。リーダーの一人がこの現実に見かねて我々の責任でやるから任せろと、この仕事を請け負ってきたのです。

ある歯科医院のカルテ10,000枚をたった二人で洗浄・消毒し、200枚/日の進み具合だったそうです。学校の緊急連絡網作成で親の個人情報確保を優先し携帯番号や職場の電話などの情報開示を拒み、いざという時に連絡が取れないという悲しい事例と同じだと思いました。

この仕事は最終的に10人以上で取り組むことになったのですが、仕事を行う建物がほとんど被災しているため無いのです。病院近くの公民館を再度念入りに泥だし、雑巾がけを行い使うことになりました。この公民館も2階まで水没して、水がひくのに4日かかったそうです。

2時間以上の清掃の後、やっと本来の仕事が始められました。

カルテ、医者の推薦状の手紙、保険証のコピー、レントゲン写真など全て裏表、洗浄・消毒するのです。封筒は中の手紙を取り出し洗浄し、封筒の内部もスプレー洗浄します。

確かに、重要で大切な仕事ですが、個人情報のため、今回の震災のような緊急事態でなければボランティアが行うことはあり得ません。

この日は、全員で2,000枚ほど完成し、明日も是非お願いしますと頼まれて一日が終わりました。

一緒に仕事をしたボランティアの皆さんのひた向きさにはとても驚かされました。新幹線で東京から日帰りで何日も週末に来ている人や夜行バスで石巻まで乗り継いで来ている人などが、たくさんいるのです。

特に世田谷区職員の方は、5月連休の代休9日間を全て使い、高速が走れない125ccのバイクに衣食住を積載し、ボランティア活動をしている姿には頭が下がりました。

ここは石巻市渡波(わたのは)地区といい、海から近い場所では今でも満潮時に道路が水没する地域で、ほとんど破壊されている状態です。海から少し離れた今回の公民館付近では、1階が窓や一部壁まで破壊されている家が多いのです。家の中にいた人の話によると、津波は音では全く気付くことができなかったそうです。震災当日、あっという間に1階が水没したため命を落とし、たまたま2階にいた人が助かったという家がたくさんあった地区です。



床面や机などの泥を掃除することからスタート。電気も未復旧、窓もドアも壊れたままの公民館で

スプレー洗浄・消毒し、タオルで拭き取る仕事

近くの小学校の避難所が満杯で可能であれば出て欲しいという勧告があり、2階に移り住んでいる家が多く2階族と呼ばれているそうです。

この呼び方にこのリーダーは、憤慨していました。好きで2階に住んでいる訳ではなく不自由さという犠牲を払って、避難所を出てあげていることに余りにも無神経だというのが、その理由です。

さらに、2階族には市の援助は無く自力で生きていかねばならないのです。車も自転車も津波により壊れ、買い物がままならないのです。特にお年寄りの中には買い物に行けない人がいるのが実態です。

せめて、小型の循環バスを走らせて欲しいと市と何回もかけあっているのですが実現しないことに不満顔でした。

循環バス運行はボランティアで対応可能だと思います。実現してあげたいなと思いました。

◆第三日目（5月30日）

昨日の夜は台風2号の雨のためテントの中が水浸しとなり、テントをそのままにして車に寝ることにしました。朝、テントは曲がっていましたが、残っていました。諦めてテントをぐしょぐしょのまま車にしまいました。

ボランティア活動は台風のためセンター全体としての中止が決まっていたのですが、カルテ洗浄の仕事は、何としてもやろうとリーダーの人たちと決めていました。しかし、リーダーから連絡があり、台風の状態が余りにひどいので今日の仕事は中止ですと電話連絡が入ります。確かに風が強く危険なことは本能的に理解するものの残念でなりませんでした。

明日の協力を約束して電話を切りました。

少し、震災の状況を見て回ろうとしたのですが、近くの旧北上川の氾濫を見て怖くなりやめました。近くにある温泉に行くことにしました。

お風呂が無い家が多く、温泉は現地の宮城ナンバーの車でいっぱいでした。温泉があることに感謝です。

◆第四日目（5月31日）

朝起きてテント村の様子を見て台風の凄さに驚かされました。ほとんどのテントが破壊され、位置もズレているのです。



台風も自然の脅威ですが、津波に比べれば大きくありません。しかし、片付けは大変でした

テント村の片づけを手伝っている時にリーダーから「現地が水没していて車で行けないため今日も残念ながらカルテ洗浄は中止」と連絡が入ります。

急遽、コンビニに行き朝食及び昼食用のおにぎりを買って今日の仕事の準備をしました。そして、折角の機会なので貞山地区の民家の床下泥だしという力仕事に挑戦することにしました。

メンバーは私たちに加え、ご夫妻2人、若者男子1人、計5人です。

この地区も1m以上床上浸水し、水がひくのに3日ほどかかったところでした。床下に海水のヘドロが溜まったままでは湿気により、家が腐ったり、シロアリにやられてしまったりするそうです。床下にもぐってヘドロを土嚢袋に掻き集め除去する仕事です。

ボランティアセンターでは、床を大工さんにはがしてもらったところを泥かきするというのが泥だしの仕様になっています。泥だしが終わると床板を張り付けるという大工さんとの協同作業が多いそうです。

この家は一部屋だけの床はがしでした。他の部屋の泥だしは、床下の通気口からもぐって行かないとできません。依頼主のご主人は、一部屋だけでいいですとってくれましたが、できる範囲でやってあげたいと思いました。

ボランティアを1か月以上やっている一人が、「大丈夫です。宮城県亘理町では当然のようにやっていましたので私がもぐって行ってやります」といって、どんどん仕事をする姿に唖然としながらも何と素晴らしい行動力なのだろうと感激してしまいました。

通気口はH300mm×W400mm 弱なのです。完全に胸まで土に付ける腹這いになっての仕事なのです。私も覚悟を決めてもぐっていき全員で3部屋＋廊下をやり遂げました。

ヘドロ掻きに汗びっしょりとなり擦り傷覚悟の仕事にも拘わらずTPM活動の初期活動以上の充実感が徐々に湧いてきました。

泥だし終了後には消毒のため、石灰をまくのも一苦労でした。

依頼主のご主人からの感謝と恐縮の言葉に勇気が湧いてくるのが自分でも分かる時間を過ごさせてもらいました。

超前向きの彼は「感謝され役に立っていると感じ、とても達成感があるので1か月以上も続けられるんです。まだまだやるつもりです」という言葉には感動を覚えました。彼は島根県雲南市から来ています。



床はがしが終了している部屋の泥掻き作業を終了し、床上に上がろうと体を捻っている様子。床板がある部屋はもぐっていかねばならないとても厳しい仕事になることが分かります

さらにもう一組のご夫妻は宮崎市から飛行機＋レンタカーで駆け付けているのです。日本には素晴らしい人たちがいっぱいいる凄い国なのだと思います。

妻も頑張ってもぐりましたが、同様に満足な顔をしていました。

こんなにも充実した時間と素晴らしい人たちに出会えたことに感謝すると同時にボランティア活動に参加し貴重な体験ができたことに満足感いっぱいでした。

それにしても、60歳を過ぎた我々には、2日位が限界かなと妻と話しました。

写真は仕事終了を記念して依頼主のご主人を囲んで撮ったものです。

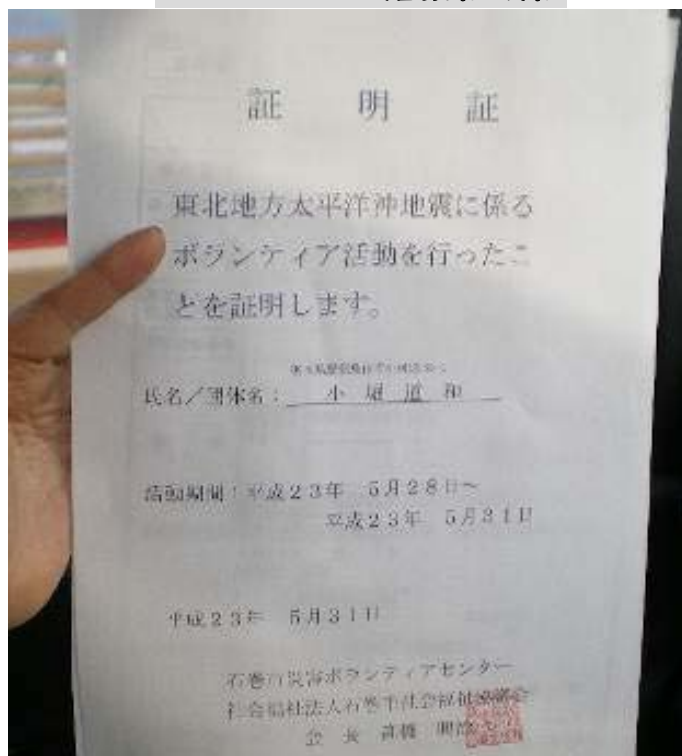
若者男子と妻が作業服を脱いでいるので私が一番仕事をしているように見事な泥です。



ボランティア活動証明証

◆ボランティア活動証明書

ボランティアセンターの事務局の方から活動証明書を市役所に持っていき高速道路無料の手続きをすることを勧められました。



このような制度がPRされていないことに憤慨します。

石巻市役所には、たくさんの県外職員が名札を付けて業務応援しています。私の対応者は、北海道江別市職員でホテルに宿泊しているということでした。とにかく庁内はごった返し状態のままでした。

◆自衛隊の活躍振り

壊滅状態の街のガレキ除去作業は自衛隊なくして考えられないほど活躍しています。石巻市内の公園などに野営しておびたしい数の特殊車両を駆使して作業をしている姿には圧倒されます。

街の中を運転していても自衛隊車両としょっちゅうすれ違います。今回の震災で信頼度を一番上げたのは自衛隊だと思います。街の中での彼らの立ち居振る舞いにも自信が溢れているように見えました。



自衛隊の野営地の様子



石巻市街中でたくさん出会う光景

◆石巻市の地図で活動を説明します



◆最後に

2年で復興するのは困難な状況です。ボランティア活動は体力に応じ、誰にでもできる仕事がいっぱいあります。現地の人も含め、素晴らしい出会いと役に立っている喜びが味わえるボランティア活動に積極的に参加して下さい。